

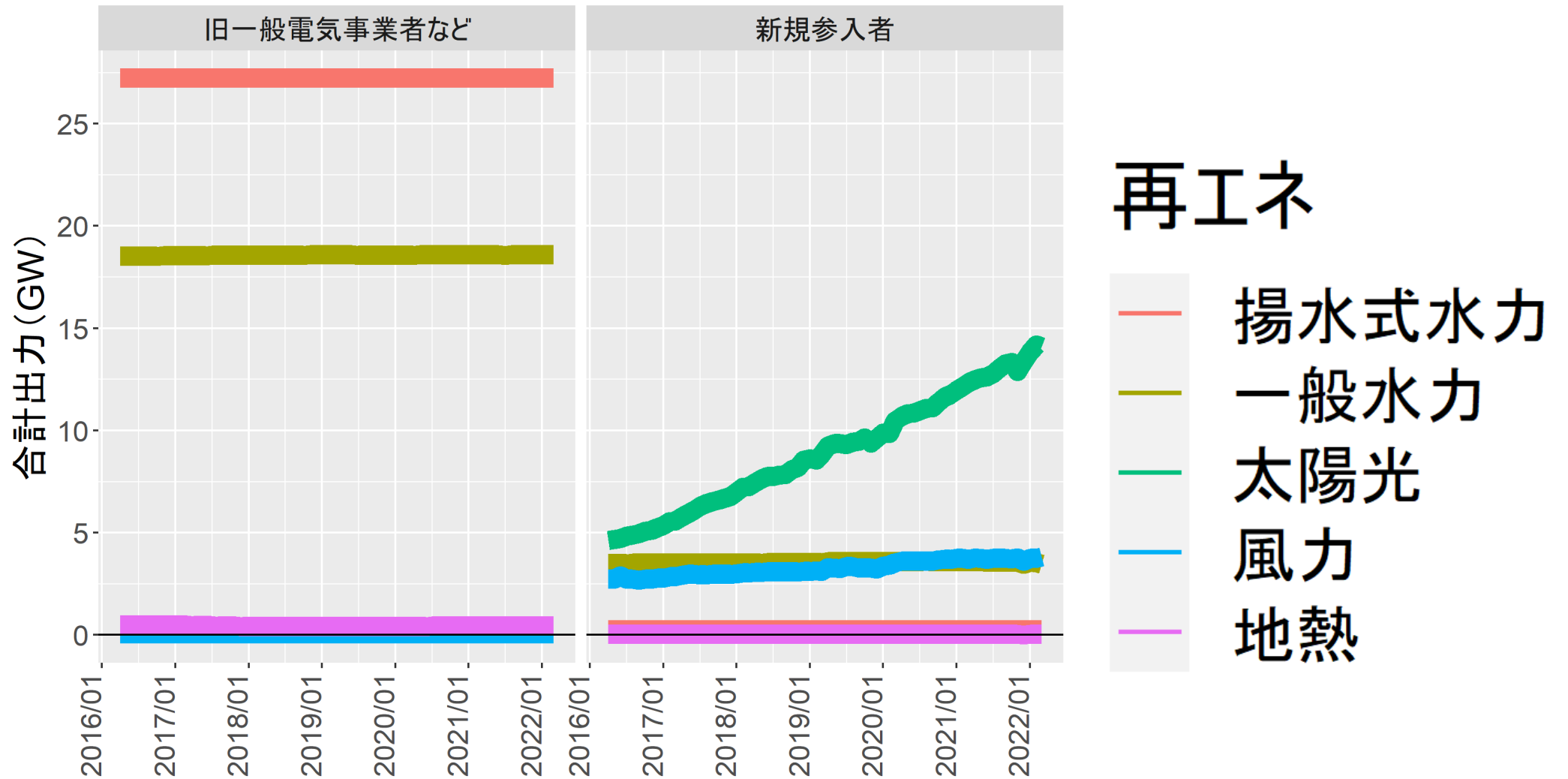
電力市場の制度設計： ベースロード市場

東京財団政策研究所

博士研究員

杉本康太 ¹

太陽光と陸上風力の担い手は、新規参入者



電力調査統計1-(1)を集計。新規参入者は新電力、発電專業事業者、自治体を含む。

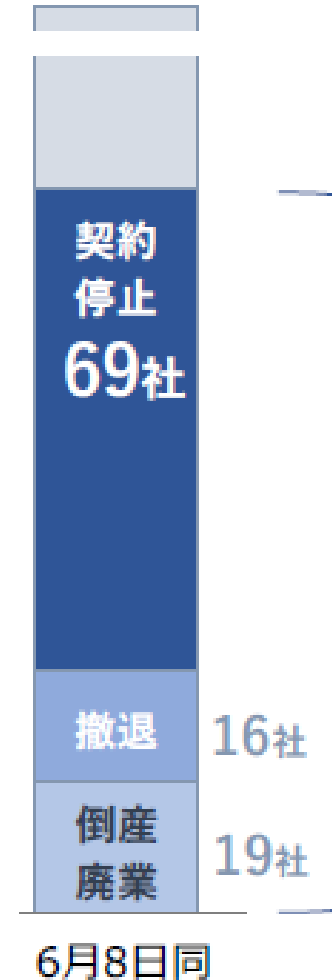
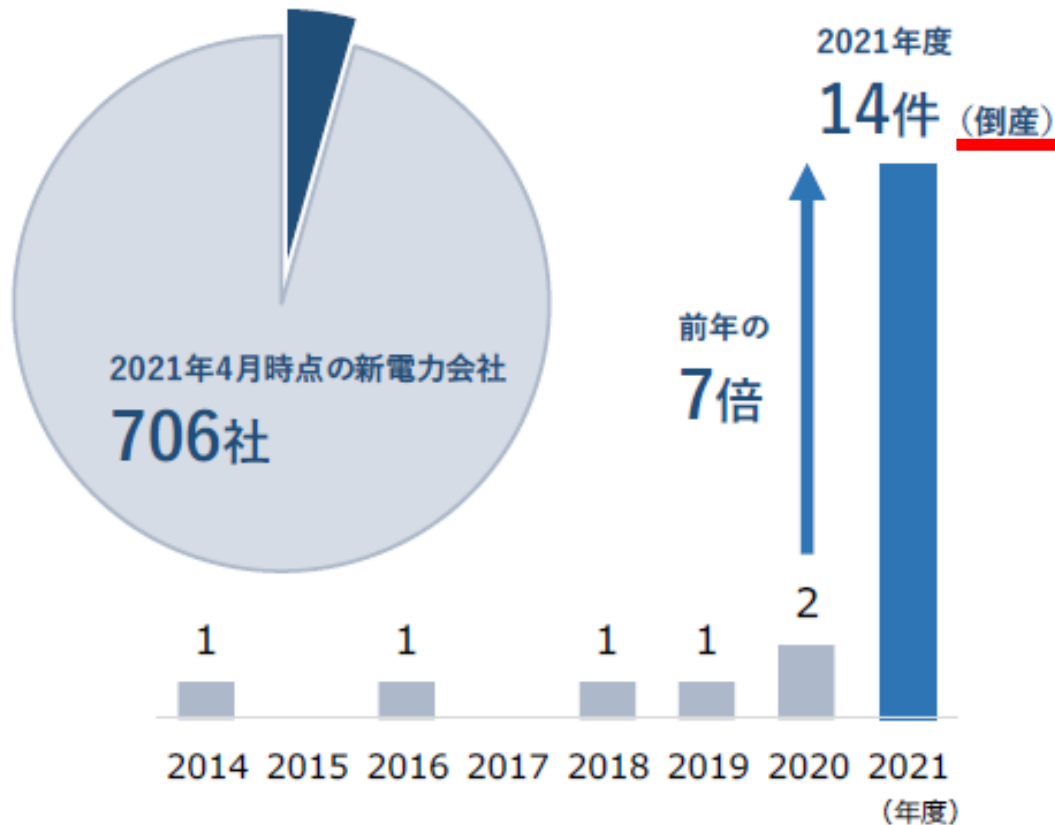
新規参入者の事業環境の整備：電力市場の設計は重要

新電力の契約停止・撤退・倒産が増加

新電力会社の倒産件数（年度別） と直近1年以内の事業撤退動向

2022年3月までに倒産・廃業・撤退

31社（判明ベース、契約停止を含む）

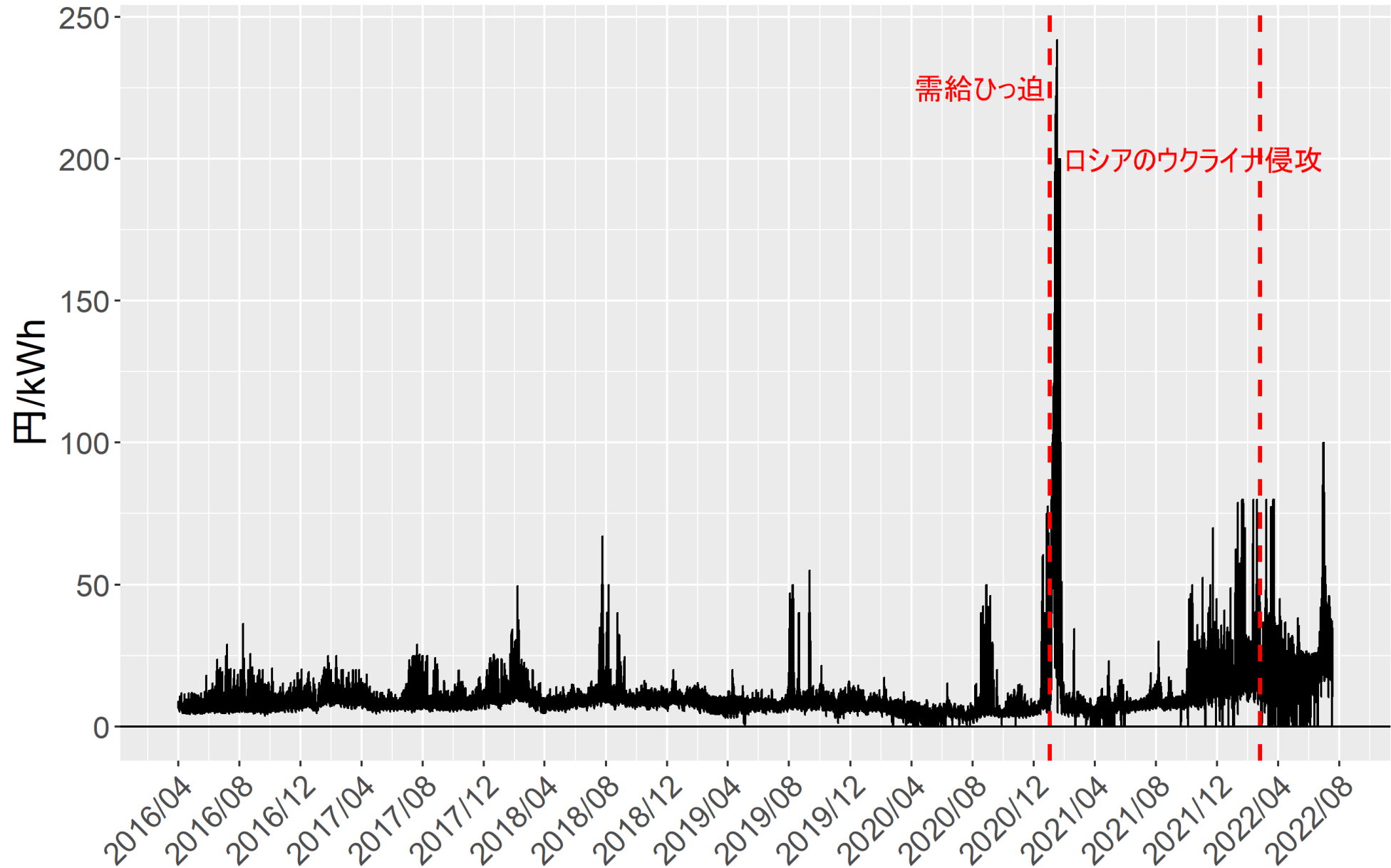


電力事業を
停止・撤退
104社
(15%)

注：累計値

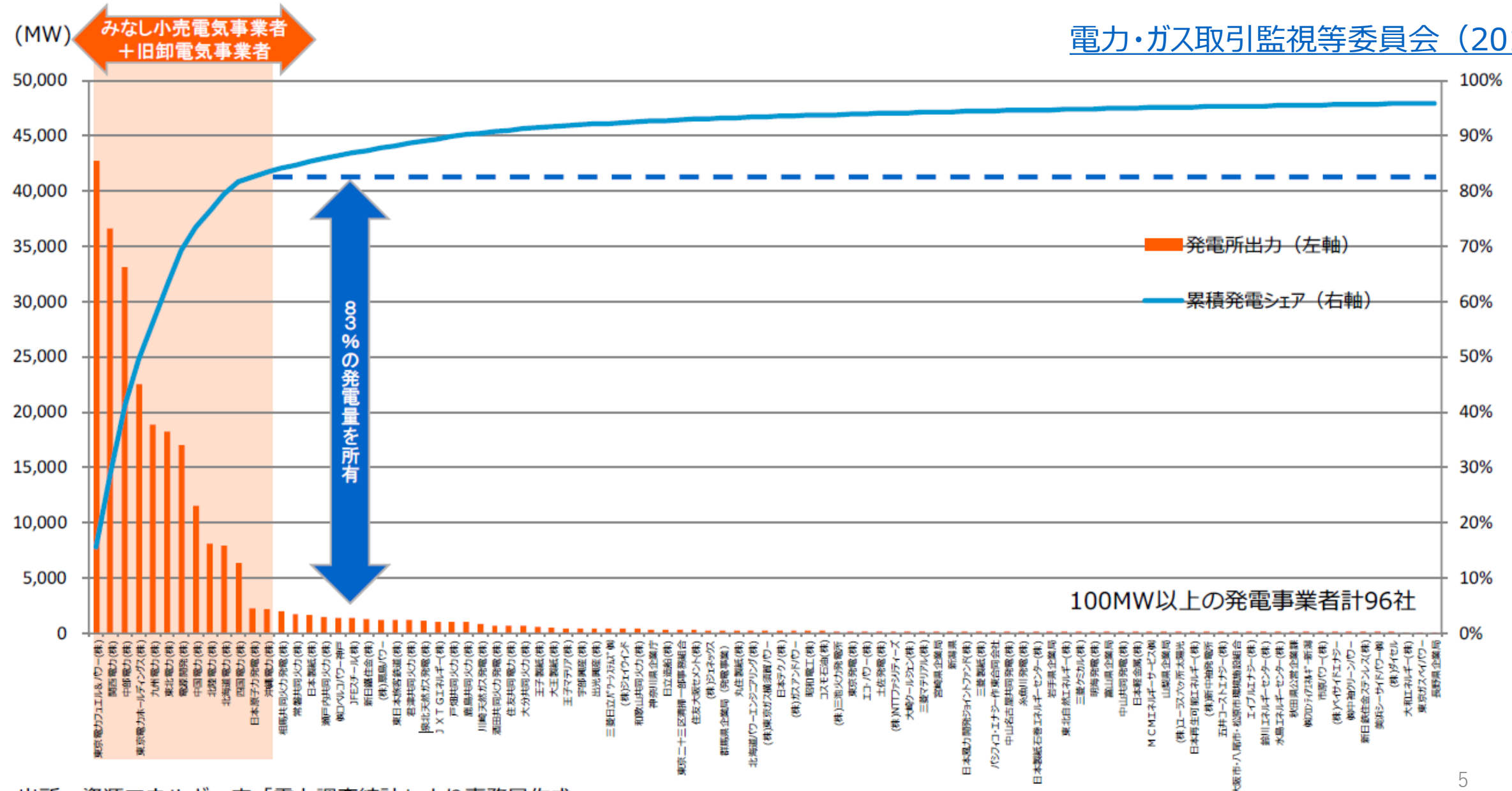
日本卸電力取引所のスポット市場価格の推移

システムプライスの1時間平均値



日本における電源保有の構造

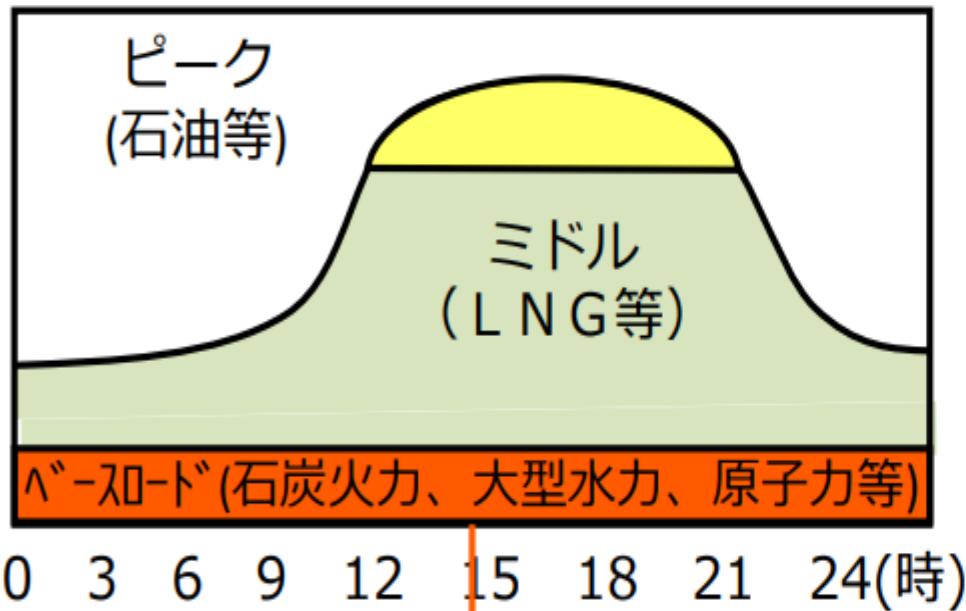
電力・ガス取引監視等委員会 (2018)



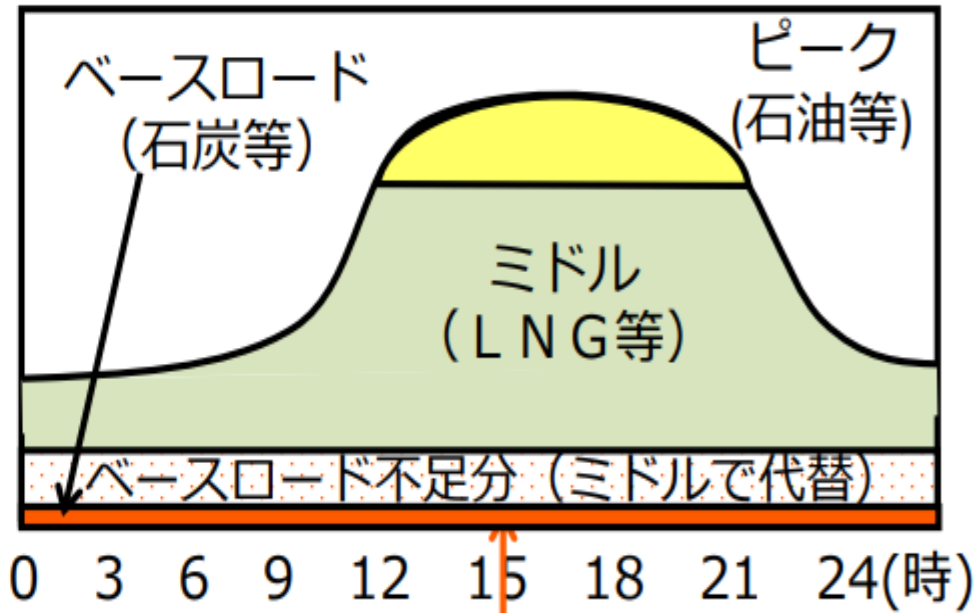
出所：資源エネルギー庁「電力調査統計」より事務局作成

旧一般電気事業者と新規参入者の供給力構成の違いとベースロード電源市場（イメージ）

＜旧一般電気事業者＞



＜新規参入者＞



更なる競争を促進

電源供出

ベースロード電源市場
(新設)

電源調達

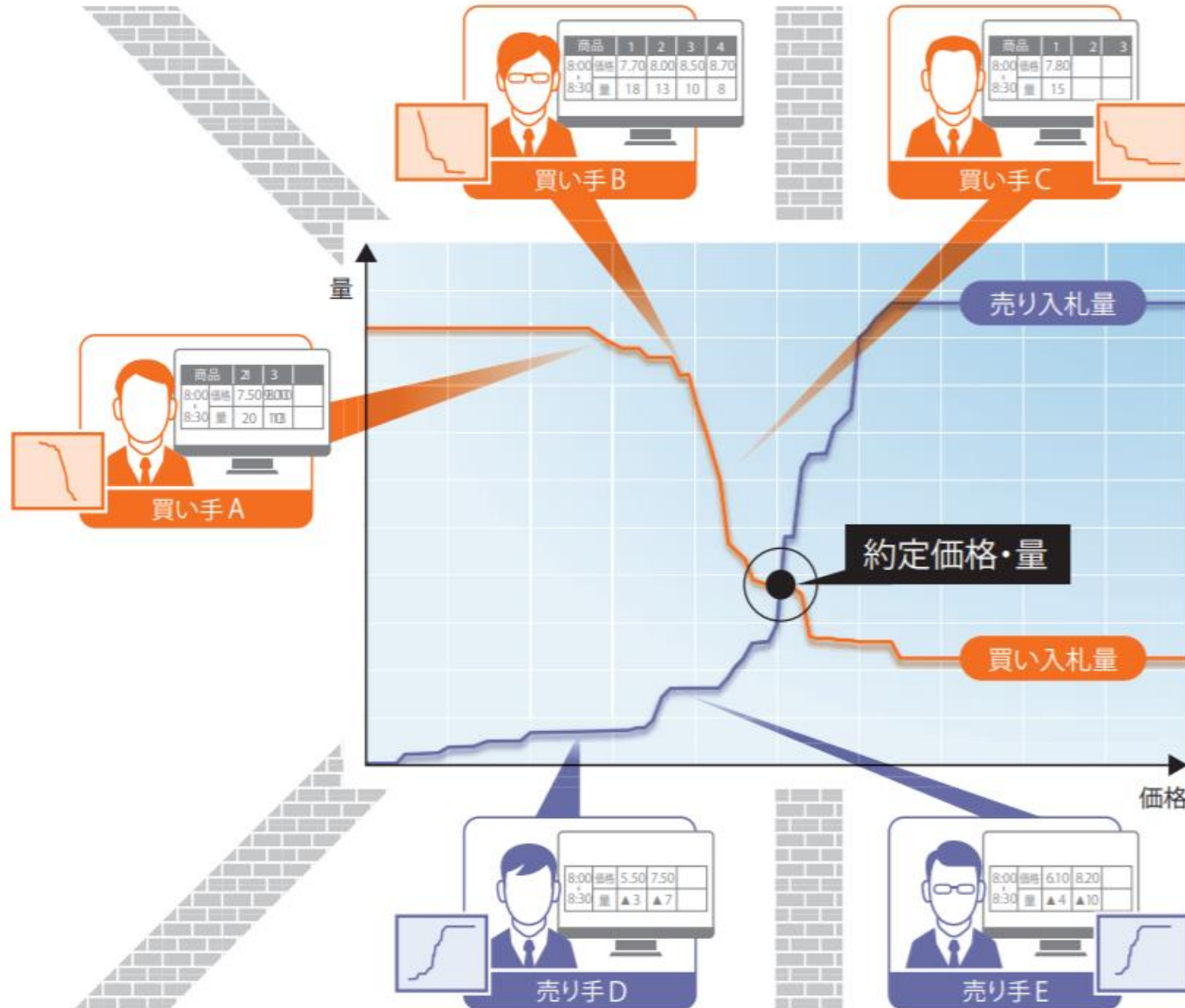
新電力にとって”ベースロード電源”の入手は、電力小売自由化開始以来の”積年の願い”

ベースロード市場とは

- 旧一電が、ベースロード電源の一定量を一定以下の価格で、
- 新電力に対して販売することを義務づける市場のこと

- 2019年7月から導入
- 商品の形態：電力量（kWh）、受渡期間 **1年**の商品
- オークション方式：シングルプライス・オークション
- 受渡し年度の**前年度**に、年4回（7月、9月、11月+1月）開催

シングルプライス・オークションとは



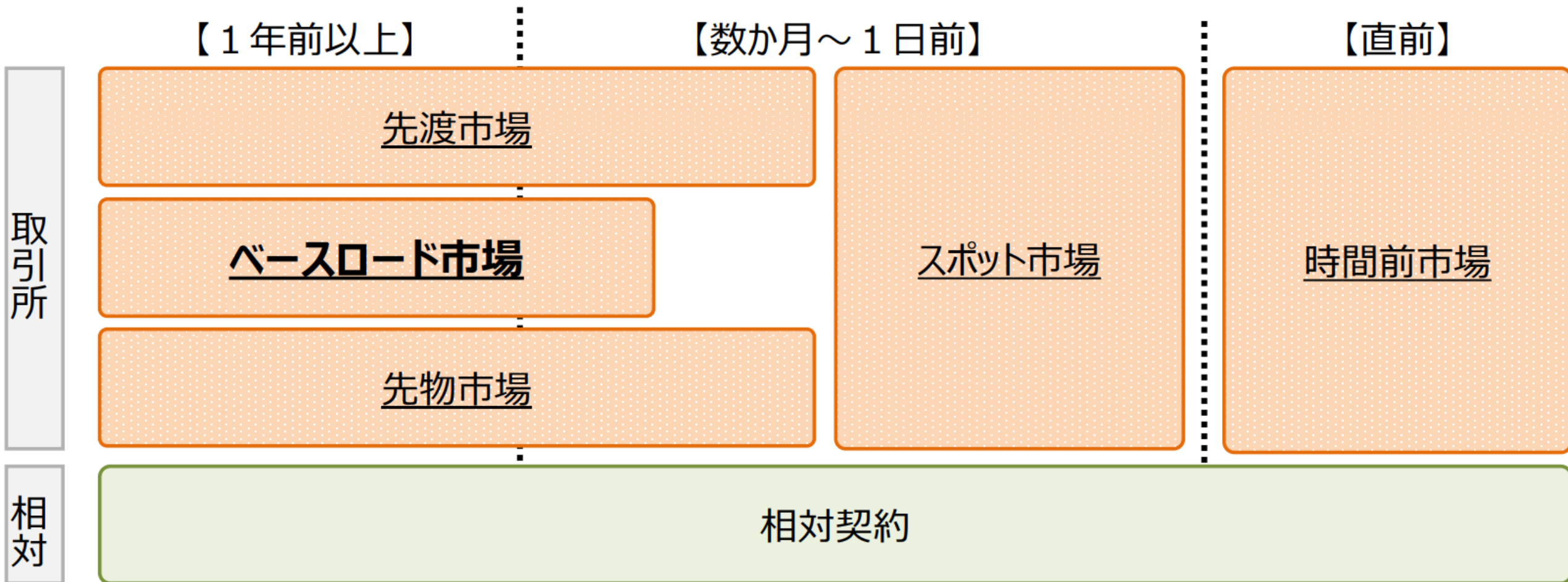
@北海道

@東京・東北

@西日本

ベースロード市場について

実需給と取引時期の関係

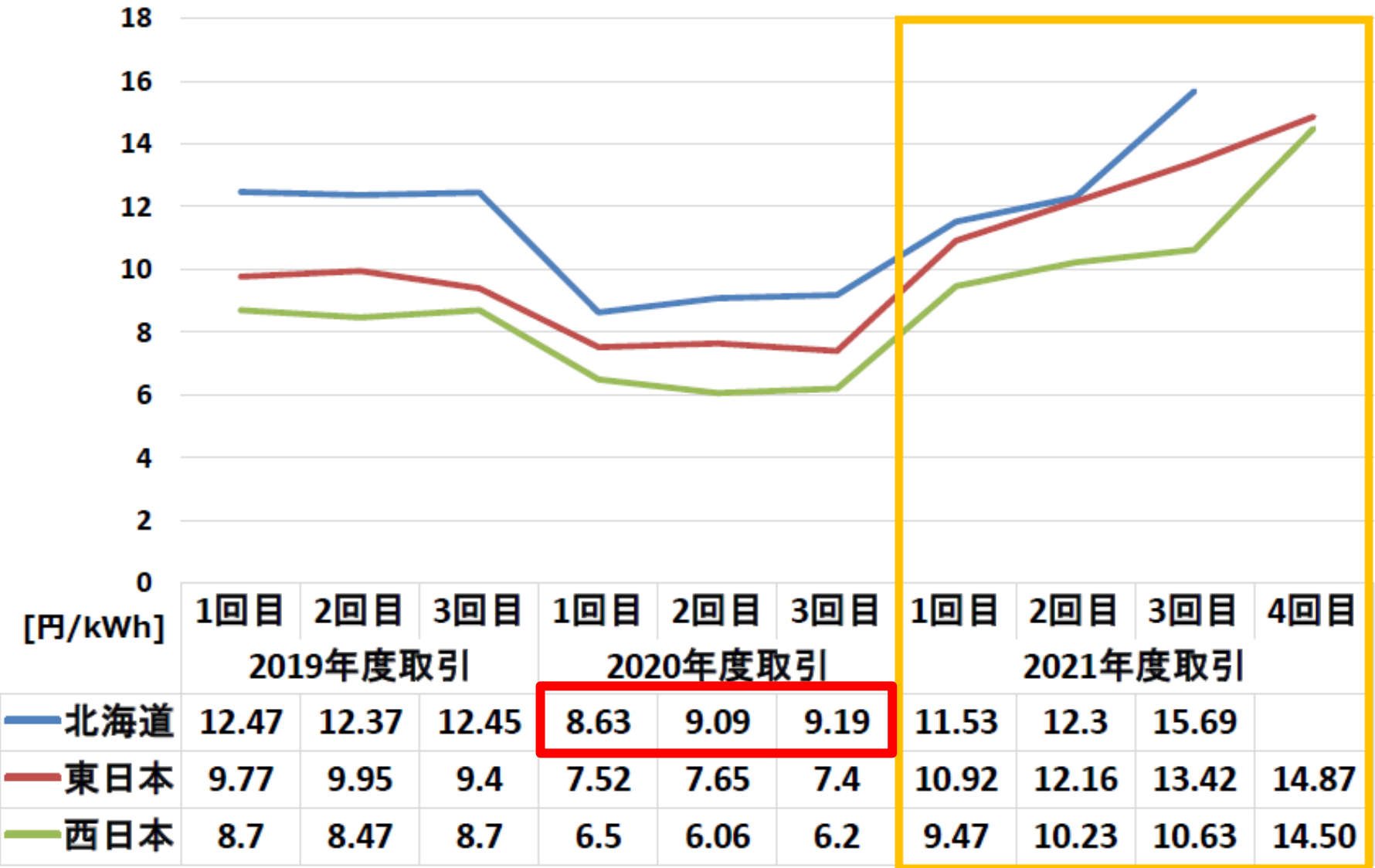


新電力がベースロード市場で十分な量・価格で買えれば、高騰リスクのあるスポット市場への依存度を減らせる。

これまでのベースロード市場の結果

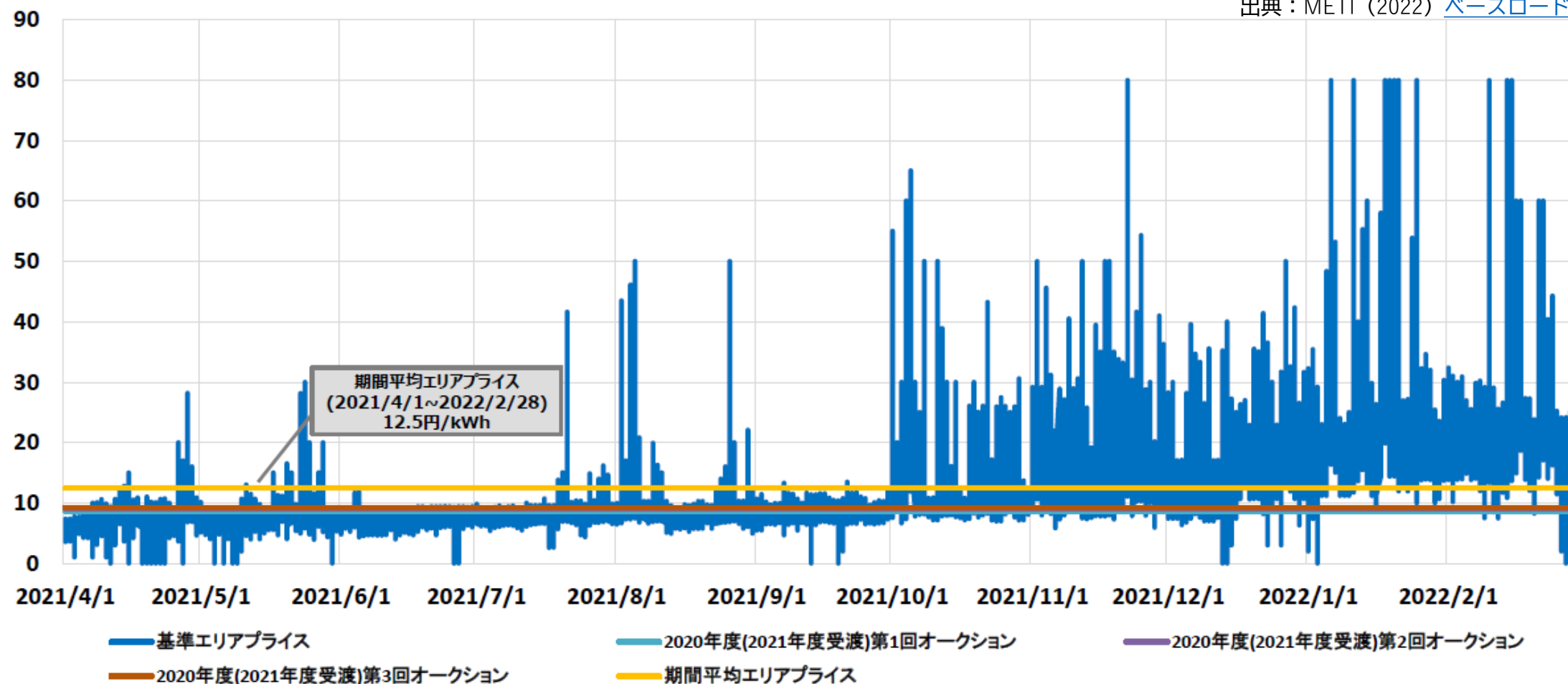
出典：METI (2022) [ベースロード市場について](#)

約定価格



(参考)2021年度基準エリアプライスと2021年度受渡分約定価格の比較(北海道)

出典：METI (2022) [ベースロード市場について](#)



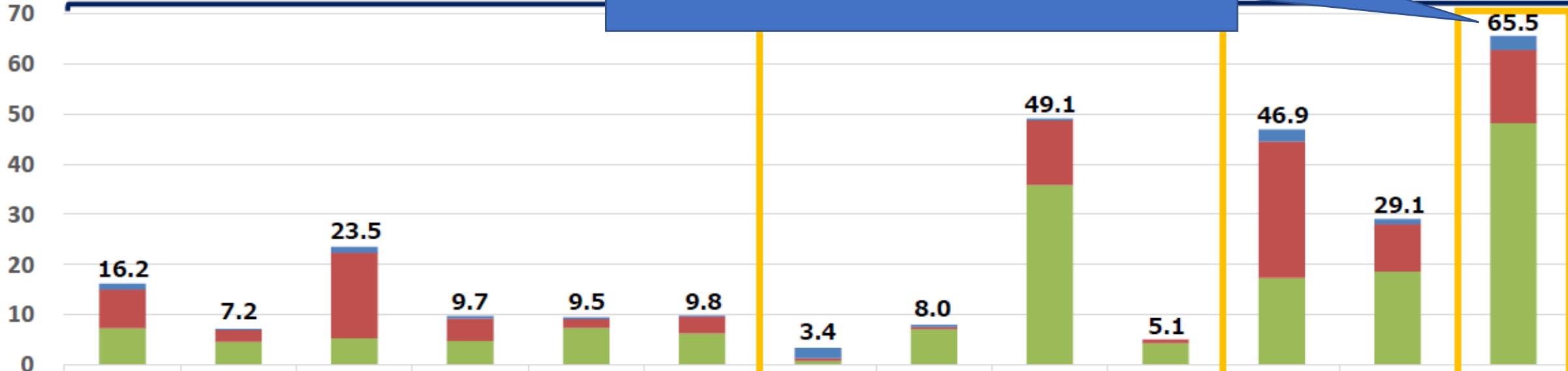
	約定価格(円/kWh)	約定量(億kWh)	BL市場約定単価<基準エリアプライスと なったコマ数の割合
2020年度第1回オークション	8.63	0.4	55.9%
2020年度第2回オークション	9.09	0.4	52.2%
2020年度第3回オークション	9.19	0.2	51.4%

約定量について

新電力の年間販売電力量の
約5%

オークション

年度別約定量



[億kWh]

北海道
東日本
西日本

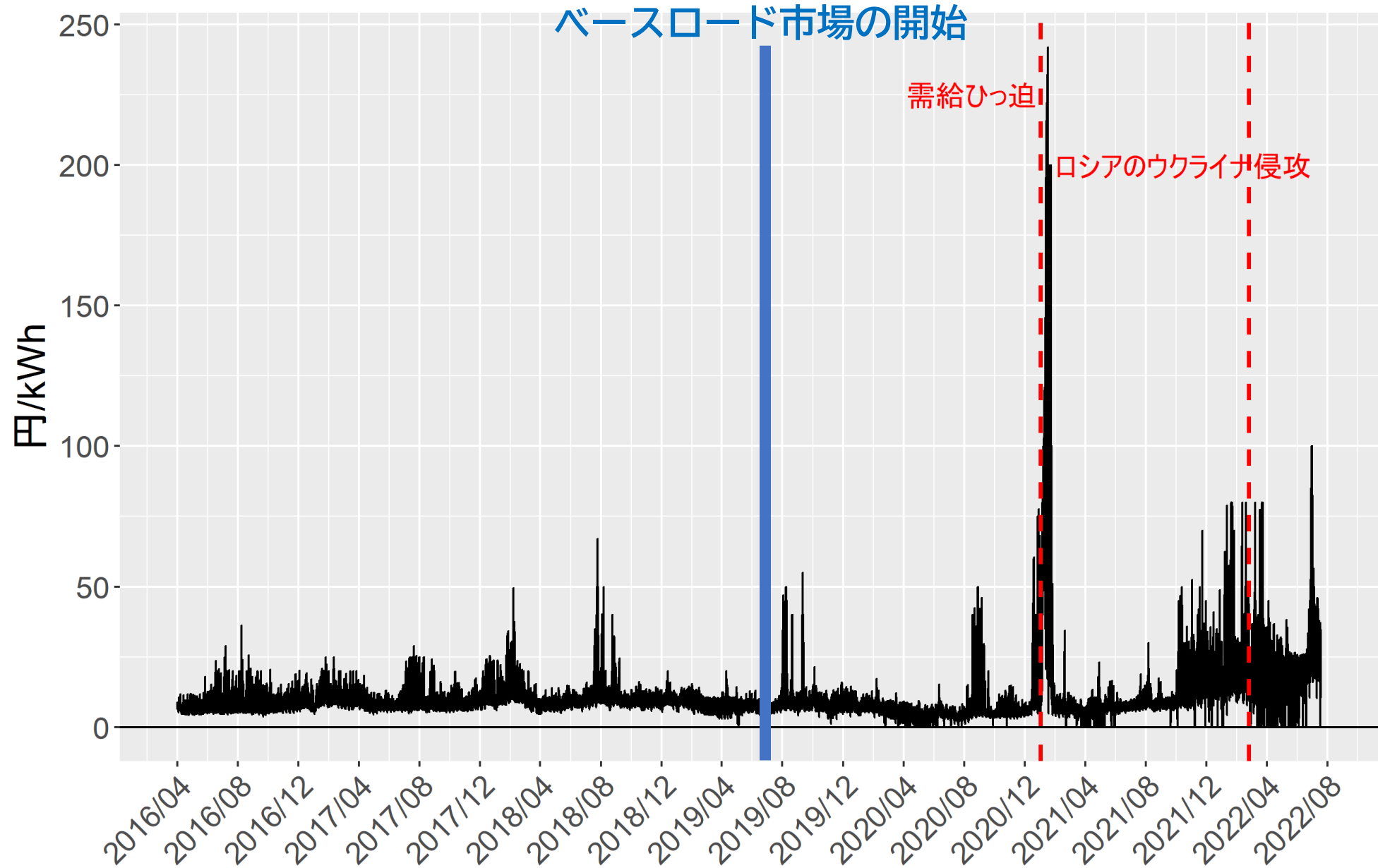
約定量が少ない原因の候補

- 新電力がBL市場より他の手段で調達した方が安いと予想した場合、買い入札価格が低下
- 旧一電・電源開発による売り入札価格が高い（ただし監視委員会が事後確認している）

応札札の平均価格

	売札平均価格	買札平均価格
2021年度 第1回オークション	11.61円/kWh	8.31円/kWh
2021年度 第2回オークション	12.73円/kWh	9.08円/kWh
2021年度 第3回オークション	13.17円/kWh	10.82円/kWh

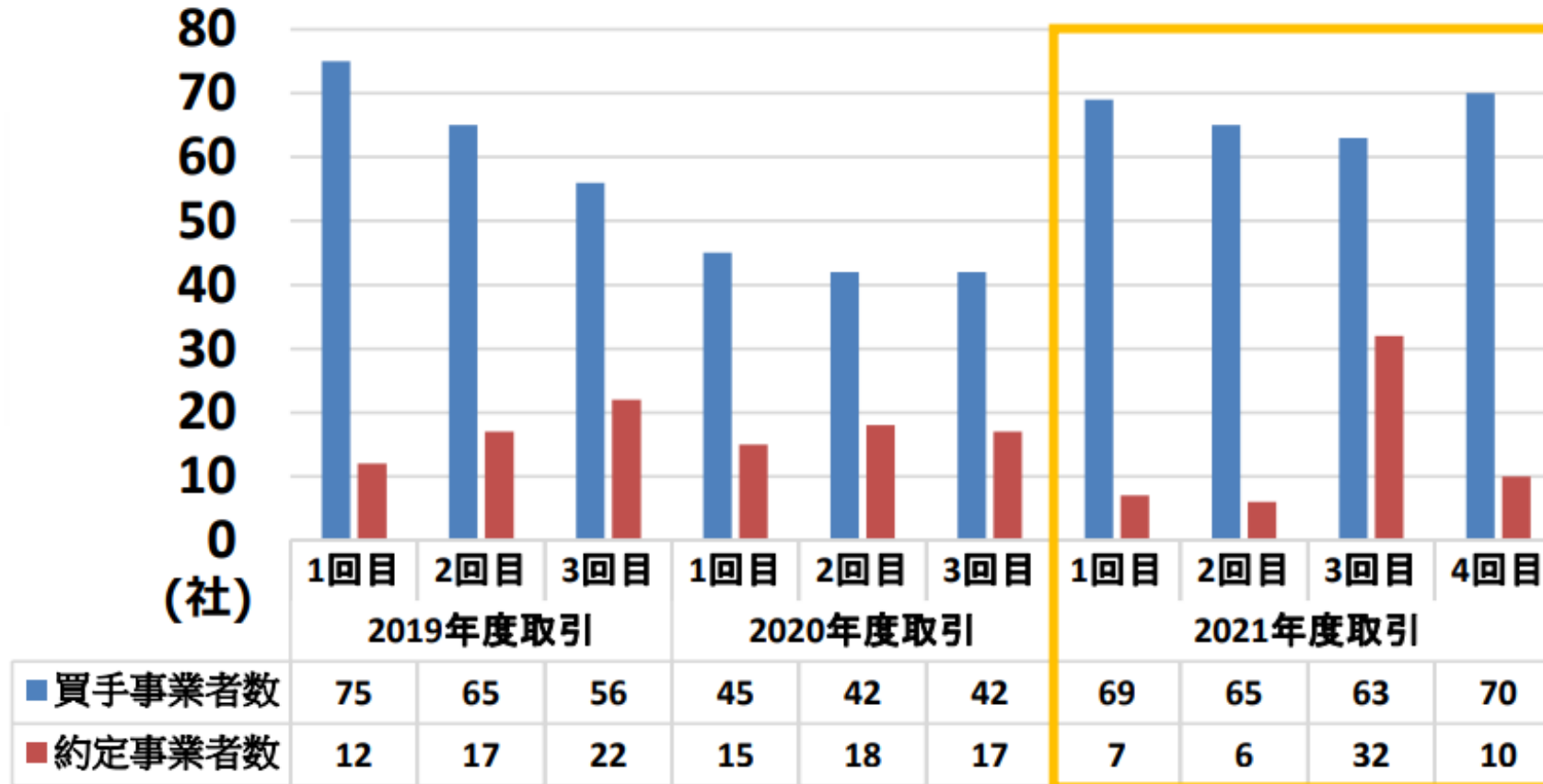
一日前市場価格の動向（システムプライスの1時間平均値）



2021年度に新たに入札に参加した買手事業者は29社

出典：METI (2022) [ベースロード市場について](#)

買手事業者数と約定事業者数の変遷



新電力はベースロード市場の活用について学習中か。¹⁵

まとめ

- 新電力は自社電源の所有率が低く、スポット市場の調達が多い。
- ベースロード市場で購入できれば、ベースロード電源を調達でき、スポット市場の価格高騰リスクを回避できる。
- これまでのところ約定量は少ないが、今度は増加が予想される。